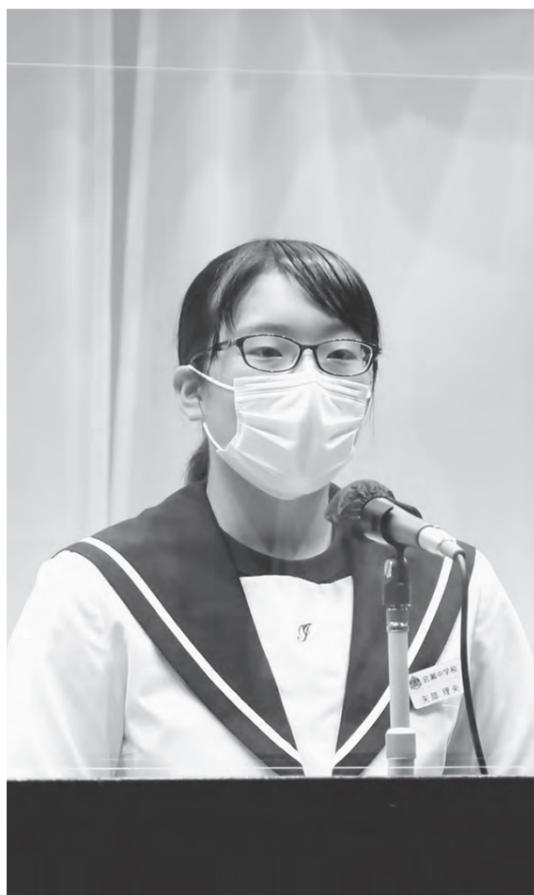


笑顔は宝物

岩瀬中3年 矢部理央さん

8月3日、t e t t eで少年の主張大会が入場者を関係者のみに限定するなど、感染対策を講じて行われました。市内各中学校の生徒10人が、日頃考えていることや感じていることなどを発表し、最優秀賞と優秀賞の5人が、県大会の出場候補者として推薦されました。最優秀賞を受賞した矢部さんの作品を紹介します。



最優秀賞を受賞した矢部理央さん

「調子に乗ってるよね。ぶりっこ」通りすがりに耳にした言葉が、私を凍りつかせた。振り向くと、私を見つめる冷たい瞳。胸がどきどきして、その場から逃げるように教室に入り、自分の席に座る。友人が話しかけても上の空で、心の中で、「なんで、どうして、私が」と同じ言葉を叫んでいた。

先生に相談してくれたクラスメイトがいた。「理央ちゃんがかわいそうです」そう言っ、先生に相談してくれたのは、いつも物静かで、私ともあまり話すことがない女の子だった。先生に話を聞かれ、彼女が先生に相談してくれたことを知ったとき、私を見てくれる人がいる、私は一人じゃない、と気づいた。

先生に相談し、彼女の私に対する態度は、少し良くなった。でも、それより、私は一人じゃない、私を思ってくれる人はたくさんいる。それが、私を強くした。

そして、私は自分を恥ずかしく

思った。自分は、他の人のつらさを感じやれる視点があったのだろうか。中学校生活の忙しい日々の中で、目の前の目標を達成することに夢中で、周りに目を向けるゆとりがなかった。

たとえば、私を救ってくれた女の子は、クラスの中でぼつんと一人であることがある。そんな時、声をかけたことが何回あっただろうか。自分には関係がないことと、どこかで線引きしている自分がいた。

人間は知らず知らずのうちに、グループを作る生き物だ。そして、その中の仲間には好意を持ち、関心を持つが、グループ以外の人間には無関心になりがちだ。私もそうだった。

この体験を通して私は変わった。もっと大きな視野で自分の住む世界を見てみよう。仲のいい人、あまり話さない人、男子、女子、年下、年上関係ない。もし、元気をなくしている人がいたら、声をかける。そして、自分のできる仕事は笑顔です。

そんな私を、「ぶりっこ」とばかにする人は相変わらずいる。でも、少しずつ周りが変わり始めた。たとえば、私はいつも給食の牛乳パックを一つにまとめる仕事をしている。「いいよ、私がやるよ。」そう言う、投げ出すように渡す男子もいた。でも笑顔で受け取るうちに、みんなが「あ



ほかの生徒の主張を熱心に聴く発表者の皆さん

※同一賞内は発表順

●受賞者一覧			
最優秀賞	矢部理央	岩瀬中3年	笑顔は宝物
優秀賞	深谷ほのか	稲田学園9年	世界中が優しくなるように
	山河ひなた	小塩江中3年	ずっとそばに
	善方朝白	長沼中3年	誰かの笑顔のために
	大塚優	第二中3年	一人十色 十人百色
優良賞	永田龍誠	仁井田中3年	困難を乗り越えて
	若林里歩	大東中3年	SNSから命を守るために
	圓谷暖	第一中3年	見方を変えれば
	金谷結香	第三中3年	ヘッドネーションで救えること
	本田葵大	西袋中3年	日頃思うこと

ニュースや道徳の授業の中で、何度も耳にした「はじめ」その言葉が胸に浮かんできた。まさか自分が、そんなはずはない。中学校入学以来、勉強も部活動も頑張ってきた。学級の仕事だって自分から進んで行ってきた。

どんな時でも「女は愛嬌、笑顔は宝物」という母の言葉を忘れず、笑顔で乗り切ってきたのに。笑おう、笑おう、いつものように、そう思うが笑えない。顔が上げられない。

今まで道徳の授業などで、先生に「はじめ」を受けたら、一人で悩まず、



緊張の発表を終えて、最後は笑顔で記念撮影

りがとう「頼むね」と丁寧に渡すようになった。私が一人で片付けているとそばで手伝う友達がいる。もう私は一人じゃない。

「他人は自分の鏡。」前の自分より、少しだけ周囲に優しくなれた私のそばには、優しい友達がいる。

今だって、毎日が100点の日々ではない。でも「笑顔は宝物。」母がプレゼントしてくれたこの言葉を胸に、笑顔を周りに届けたい。

優しさと笑顔は、巡り巡ってみんなを幸せにする。「笑顔」は、心に灯をともし「宝物」だから。

生涯学習スポーツ課 ☎(88)9171



自分の考えや思いを堂々と発表

先生やおうちの人に相談をしよう、と教わってきた。そう聞いたときに、その通り、そうすればいいよと思っていた。でも、その一言が言い出せない。

それから、ならみつけられたり、聞こえよがしに悪口を言われる日々が続いた。

言っているのは、たった一人なのに、そばにいて悪口を聞いている人も、私を嫌っているように思える、次第に周囲の人みんなが、私を嫌っているように思えてきて、どんどん自信を失い、「笑顔は宝物」その言葉も、むなしく感じるようになった。

そんなとき、私のことを心配して

善方威浩審査委員長(白江小校長)より講評

今日の発表の中で、皆さんはこれまでの自分自身や社会の現状を振り返り、家庭・家族や先生・友達から学んだことを基にこれからの自分自身はどうあるべきか、未来はどうあるべきかを模索しています。そして、その実現のためにどのような努力や実践をしていくつもりなのか、そのビジョンを持っています。

既にここには、自分に自信が持てず、行動力に欠け、将来に悲観的な若者の姿はありません。どうぞ皆さん、この会場で自分の主張を堂々と発表したことを忘れずにいてほしいと思います。皆さんの発表を聴かせていただきながら、もう少し広い視野と多様な価値観から考察を深めてほしいという思いも持ちました。しかし、それはこれからの皆さんの新たな学びや様々な人々との出会いの中で身に付くものでもあります。

これから持続可能な社会づくりを担う皆さんの益々の活躍を期待して、本日の講評とさせていただきます。(一部抜粋)

ホームページで主張を公開中!

8月14日にウルトラFMで、少年の主張大会の作品が紹介されました。

市ホームページでも公開していますので、中学生の思いをぜひお聞きください。



少年の主張大会